

食品中の放射性物質に関わる行政の調査結果及び関連情報
(9月10日に公表された情報)

1. 行政による放射性物質検査

福島第一原発事故が発生して以降、行政による検査が継続的におこなわれています。9月10日に公表された結果によると、3364件(福島県は3169件)の検査がおこなわれていました。基準を超えたものは3件でした。(厚生労働省のホームページから報告されている放射性物質検査の結果の概略から)。以下特徴についてまとめています。

(1)検査について基準を超えたものについて

- ①岩手県で捕獲された野生鳥獣について、基準を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。
 - ア. 岩手県奥州市:クマ(240 ベクレル/キログラム)
 - イ. 岩手県陸前高田市:クマ(160 ベクレル/キログラム)
 - ウ. 岩手県大船渡市:クマ(150 ベクレル/キログラム)
 岩手県の上記地域で捕獲されたクマについては、すでに出荷制限措置がとられているため市中には出回っていません。

2. 検査結果について

(1)検査結果の概要

表1. 福島県で採取された沿岸魚の検査結果の傾向(2013年3月26日の検査結果とここ最近の検査結果の比較)

検査結果判明日	検出限界以下となった割合	基準は超えていないが、何らかの数値が検出された割合	基準を超えた割合
2013年3月26日	52.6%	41.4%	5.9%
2019年10月4日	100%	0.0%	0.0%
2019年10月11日	100%	0.0%	0.0%
2019年10月18日	100%	0.0%	0.0%
2019年10月25日	100%	0.0%	0.0%
2019年11月1日	100%	0.0%	0.0%
2019年11月15日	100%	0.0%	0.0%
2019年11月22日	100%	0.0%	0.0%
2019年12月6日	100%	0.0%	0.0%
2020年1月10日	100%	0.0%	0.0%
2020年1月31日	100%	0.0%	0.0%
2020年2月10日	100%	0.0%	0.0%
2020年2月21日	100%	0.0%	0.0%
2020年2月27日	100%	0.0%	0.0%
2020年4月13日	100%	0.0%	0.0%
2020年4月27日	100%	0.0%	0.0%
2020年6月12日	100%	0.49%	0.0%
2020年7月14日	100%	0.0%	0.0%
2020年9月10日	100%	0.0%	0.0%

基準を超えた沿岸魚はみつきりませんでした。福島県の937検体の水産物(海洋)が検査されました。今週の結果で、放射性セシウムが検出された魚介はありませんでした。

(2)京都の空間線量(8月31日～9月6日)

京都市の空間線量は(16.9メートル地点)1メートルの高さの推計値は0.055～0.058 マイクロシーベルト/1時間となっています。福島市の空間線量は(2.5メートル地点)0.13 マイクロシーベルト/1時間となっています。

3. 関連情報

(1)福島米の抽出検査始まる 全量全袋から移行(河北新報より)

東京電力福島第1原発事故に伴う福島県産米の放射性物質濃度検査で、県は24日、これまでの全量全袋検査から本年度移行する抽出検査を初めて実施した。

抽出検査は早期出荷米は原則として生産者ごとに1点、一般米は旧市町村ごとに3点ずつ実施する。放射性セシウム濃度が食品衛生法の基準値(1キロ当たり100ベクレル)を下回れば、検査を受けていないコメも出荷や販売ができる。

24日は郡山市の県農業総合センターで、二本松市などで収穫した早期出荷米3点を検査した。県は25日に検査結果を公表する。一般米の抽出検査は9月10日ごろに始める。

旧避難指示区域では当面全量全袋検査を続ける。県産米の95%以上が抽出検査に切り替わり、検査対象数は年間940万点から約1100点に減るといふ。

県水田畑作課の渡辺敏弘主幹は「抽出検査でも安全性は十分担保できると考えている。結果は迅速に公表する」と話した。

全量全袋検査は2012年産米から始まり、自家消費を含む全てのコメを対象とした。15年産以降、基準値超の検体はゼロ。農家の負担軽減などを目的に県が抽出検査移行を決めた。

以上